

# 海洋プラスチックごみ対策に係る取組について

平成31年2月

経済産業省

# 海洋プラスチックごみ対策に係る経済産業省の取組

## 1. 基本的考え方

- プラスチックごみによる海洋汚染問題の解決は、ごみの適切な回収・処分が大前提であり、ごみを多く排出する新興国も含めた、世界全体の取組が不可欠。更に、それでもなおプラスチックごみが海洋流出するリスクに対応して、新素材の開発などイノベーションによる解決で世界に貢献していくことが重要。
- 経済産業省としても、産業界の自主的な取組と官民一体で連携しながら、海洋生分解性プラスチック等の開発・普及に向けた施策に取り組んでいく。

## 2. 産業界の主な自主的取組

- <sup>クロマ</sup> CLOMA (Clean Ocean Material Alliance)
    - …化学業界をはじめ流通・小売業界も含め、プラスチック製品のサプライチェーンに係る事業者が本年1月に設立。
    - …持続可能な使用や代替素材の開発・導入等に取り組む。
  - <sup>ジャイミー</sup> JaIME (Japan Initiative for Marine Environment)
    - …化学産業の主要企業・業界団体が昨年9月に設立。
    - …海洋プラスチックごみ問題に関する情報分析・発信、科学的知見の蓄積、アジア新興国の支援等に取り組む。
  - 日本経済団体連合会
    - …昨年11月に「SDGsに資するプラスチック関連取り組み事例集」を作成。
- (参考) AEPW (Alliance to End Plastic Waste)
- …欧米をはじめグローバル企業のアライアンスとして本年1月に設立。
    - \* 日本企業は三菱ケミカル、住友化学、三井化学が参加。
  - …当初の5年間で15億ドルを投じ、プラスチック廃棄物の抑制・管理、また使用後のソリューションを推進する施策を展開予定。

## 3. 新素材開発・普及の支援強化

- 海洋生分解性プラスチックの技術ロードマップの策定
    - …経済産業省において、NEDO等関係機関と連携して、バイオプロセス技術の課題整理や普及導入目標設定、支援施策等の技術ロードマップを策定作業中。本年春目途に策定し、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」(仮称)に反映していく。
- < 主な技術課題 >
- …海水中での生分解メカニズムの解析
  - …生分解性機能の高度化と新たな樹脂開発
  - …安定的な量産化に向けた製造コスト削減 等
- < 主な研究開発・普及支援施策 >
- ・【NEDO】エネルギー・環境分野の中長期的課題解決に資する新技術先導研究プログラム(来年度予算案37.4億円の内数)
  - ・【NEDO】研究開発型スタートアップ支援事業(来年度予算案17.2億円の内数) 等
  - ・【産総研】国際標準化支援(官民連携でプラスチック製品の生分解性評価等に係るISO策定を推進中)

官民連携によりイノベーションを促進して世界に貢献していく

# <参考> クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA) について

- 海洋プラスチックごみの削減に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用や、生分解性に優れたバイオプラスチック・紙等の代替素材の開発・普及を加速することが重要。
- こうしたイノベーションを加速化する交流の場として、海洋プラ問題に積極的に取り組むサプライチェーンを構成する関係事業者（容器包装等の素材製造事業者、加工事業者、利用事業者）の連携を強化する「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」（Clean Ocean Material Alliance; CLOMA(クロマ)）が設立（事務局：(一社)産業環境管理協会）。
- 今後、代替素材の開発・普及促進や国際連携等の具体的な会員活動等に順次取り組んでいく。

**会員数 171社・団体（2月時点） 会長：花王（株）**

## <主な活動内容>

